

卓 話

平成 21 年 4 月 7 日

『梅のはなし』

有限会社自然学総合研究所
会長 水野瑞夫様

梅は中国名の発音から転訛して、今日の名前ウメが生まれました。初めて日本に梅が入って来たのは、弥生時代だといわれています。水田稲作とともに中国の長江流域から、渡来したとされる遺跡などから出土するウメの核、木片がそれを裏付けています。

当時「烏梅^{うばい}」という薬として中国より入ってきましたが、そのことばを中国語で発音すると「うめい」となっていたものが、後に本物の梅が入って来た時にもそう呼ばれ、現在の梅となったようです。

この烏梅は、中国原産のウメの未熟な青梅をわらを燃やし煙をあてて薫製にしたもので、これを水で煎じて飲みますが、解熱・鎮痛・健胃作用があります。

ウメが文献上で最も早く現れるのが、漢詩集「^{かいふうそう}懷風藻」(751年)であり「古事記」「日本書紀」には出てきません。これは、梅が詠まれるようになった「万葉集」からであり、次いで「古今和歌集」に盛んに詠まれるようになったからです。

また、徳川の鎖国時代に、シーボルトは日本の植物誌である「フローラ・ヤポニカ」を見事な図譜でまとめました。その中で中国原産の沿樹(薬木)である梅を紹介。ソフラ・ヤポニカ(日本の沿樹)という学名を与えました。後に梅がフランスに渡り、その沿樹であるウメのつぼみに血圧を下げる効果があるルチンを含んでいることが解り、盛んに外国のバイヤーが「ソフラ・ヤポニカ」の名を開き、日本に買い付けに来たということもあったそうです。

さて、岐阜梅林公園の梅は、約 50 種で 1300 本の梅があります。日本全国では約 300 種ほどです。1 月中旬から 4 月上旬まで開花が楽しめます。

他にも安八百梅園があります。園内には 1000 本、140 品種が植えられています。3 月の第一日曜日に園友会、2 月中旬から 3 月中旬までバザーと盆梅展が開催されています。

その他にもユニークな所で、関ヶ原の「聖蓮寺のへ房梅」、鏡島弘法の「乙津寺の杖の梅」、谷汲の「谷汲盆梅展」などがありますので、一度お時間があればお楽しみ下さい。

